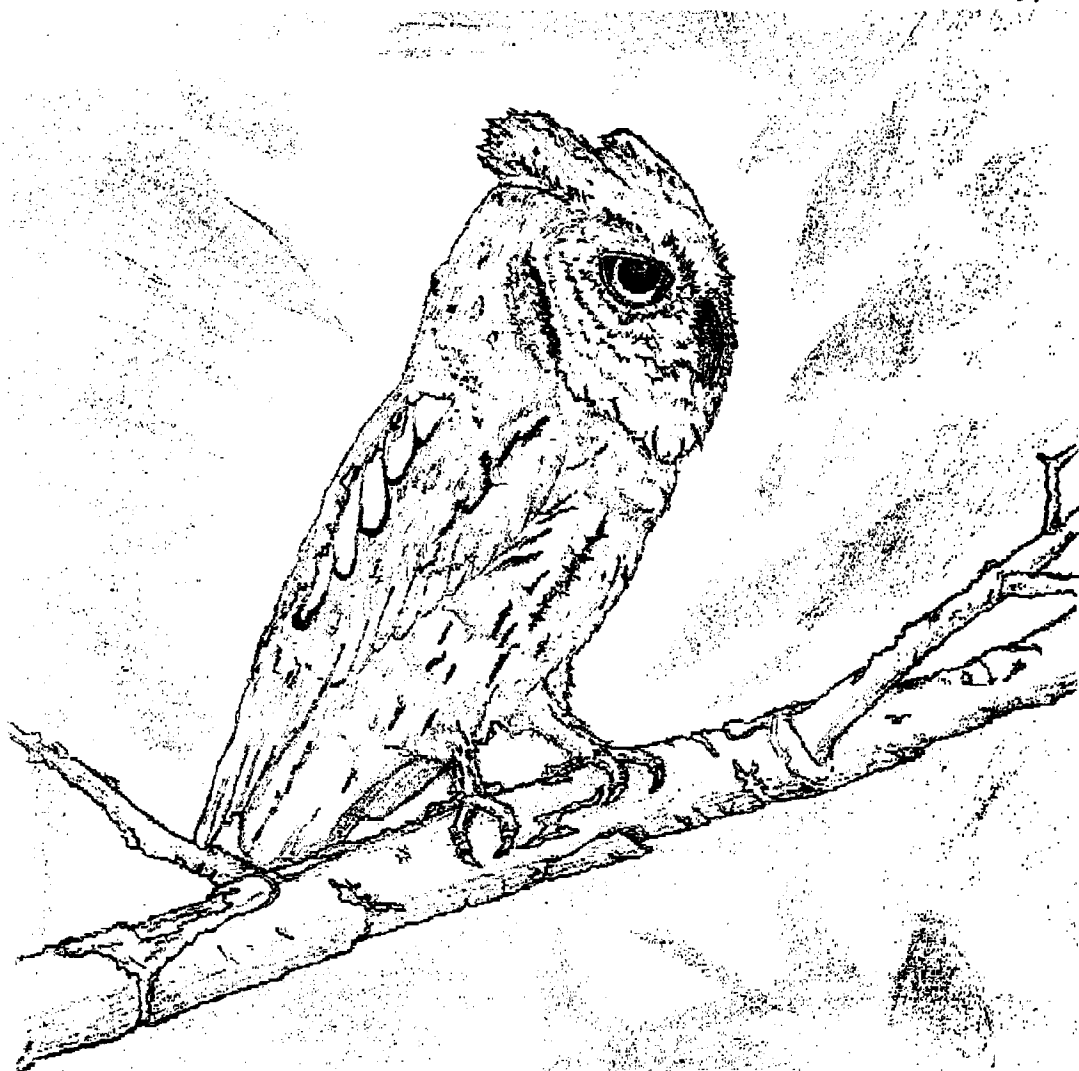


# しんせう

第36号



2002年 8月

(財) 日本野鳥の会 三重県支部

● 山が教えてくれたもの ● 近藤 義孝

夏の日本アルプスの3000m級の山々に登るとカヤクグリ・イワヒバリ・ライチヨウ・ホシガラス・ルリビタキ・ウソ・アマツバメ・イワツバメ・コマドリなどが観察できます。

高校で教職に携わっている関係で20代後半から毎年、夏休みになるとすぐ山岳部の夏合宿でした。若い頃はひたすら登ることだけが目的でしたが、30代後半から野鳥の会に入り、鳥も観察するようになりました。

山岳部の夏合宿はテント・寝袋・着替え・炊事道具・食料などすべて自分たちで準備し、運びます。そのため、20kg以上のザックを背負っていくことになります。それまで、いろいろとトレーニングをつみ、体力・技術を身につけているはずなのですが、1年生部員にとっては大変です。経験がないうに、合宿初日は急な登りが大部分、歩き始めて1時間もしないうちに「もう目的地に着くのか」などと聞いてきます。「まだ、まだ、休憩はするけれど目的地はずっと先だよ。ゆっくり行くから大丈夫。」と話しながら、内心ホッとします。

実は経験のない1年生の彼はすでに精神的に疲れているので、彼がパーティのこれからのペースを決めてくれます。若い時は生徒を引っ張るように登っていましたが、だんだん体が思うようにいかなくなりました。ペースメーカーができる余裕を持って歩け、ようやく、周りの花や鳥の鳴き声にも関心が持てるのです。

幕営地に到着するとすぐにテント張り、炊事、水くみなど作業が待っています。初日のために体がなれていないので、疲れ切った生徒にはつらい作業になります。でも、早い夕飯を食べるときになると、みんな元気になってきます。後かたづけをして、汗くさい体のままテントで就寝になります。幕営地のなかには石ころゴロゴロの所もあります。背中に石が当たって眠れないものもいます。

翌朝、4時頃には起床し、テントをたたみ、朝ご飯です。荷物を背負って出発する頃に朝日が昇ってきます。下界は雲海、遠くに見える富士山を見つけて、歓声を上げたりするのもこのころです。

目 次

今月の表紙 絵：熊沢 英樹

- 巻頭エッセイ・今月の表紙・・・1
- 支部活動のページ・・・・・・2
- 会員のページ・・・・・・8
- 探鳥会報告・・・・・・11
- 編集後記・その他・・・・・・15

今月の表紙

コノハズク

三重大学演習林での探鳥会で他の参加者の方に聞かれました。「コノハズクってどんな鳥ですか?」「東南アジア方面より渡って来る(ガ)とか(甲虫)を主に食べる小さなフクロウです。」と話してしまいました。実は小生も一度も「天然物」を見たことがなく(講師師見て来た様な・・・)になつてしまいました。そこで今回は(しろちどり)の表紙に実物大の絵を書きました。次回の同探鳥会までに「キヨオヨキヨ」のヨタカも含めてカービングに挑むつもりです。

乞う御期待。持つて行かなかつたら似ても似つかないものと思つて下さい。

どなたかヨタカの下半身どうなっているのか知りませんか。下半身、足の部分

熊沢 英樹(津市)

山では、顧問は「お山の大将」です。生徒から見れば、「わがままで困った大将」です。24時間一緒に生活する中で、学校では聞くことのできない本音を聞いたりします。こちらも自分をさらけ出すので、「学校では内緒だぞ」となります。

高校のクラブ活動は華やかな野球部やサッカー部などを除き、衰退期に入っています。特に山岳部は以前の半分以下の部員しか集まっています。世間では嫌われる職場は3Kといわれますが、山岳部は「キケン」、「キツイ」、「キタナイ」、「カネガカカル」、・・・と4Kとも5Kともいわれています。

それでも、山岳部員のその後を見ていると、すばらしい人生を生きているのではないかと思います。山登りを続けていたり、野生生物の保護に関わった仕事に就いたり、自分の興味関心を持ったことにこだわった生き方をしています。

高山植物やイワヒバリ・カヤクグリなどの鳥、夜空に輝く満天の星空、そんなものを体で感じながら、自分の生きる道を見つけてくれた教え子たち。それに続く子どもたちをこれからも育てたいと思います。

☆三重県支部交流会が開催されました☆

2002年、8月4日、松阪市の「サンライフ松阪」において、野鳥の会、交流会が開催されました。バードウォッチャーにとって、シーズンオフの8月は何か物足りなさを感じてしまう季節、ならば、鳥好きの仲間が集い、鳥談義、情報交換の場を設けて楽しい時を共有しあったらどうかと計画されました。

当日の参加者は28名で、遠くは熊野から4時間もかけ参加して下さった方もあり嬉しくおもいました。杉浦支部長の経験を交えた楽しいお話の後、参加者1人、1人の近況報告、自己紹介があり、会員歴は長いがお会いするのは初めての方、今年野鳥の会に入会された方等、色々な方と色々な話が出来、交流会ならではの楽しい一時だったとおもいます。

この様な交流会、今後も開いていけたら会員同士の親睦も深まり、楽しみも増えるのではないのでしょうか。

(企画部：中村)

☆2002年の三重県下自然海岸におけるシロチドリ繁殖状況☆

吉崎海岸(楠町)：4月1日から8月1日まで2週間ごとに継続的観察をした。最高8羽のシロチドリを記録し、6月19日には1巣を発見しているが、7月8日には消滅していた。幼鳥は発見されておらず、当海岸で繁殖に成功した形跡は見られなかった。観察：高和義

河芸港より北の豊津浦(河芸町)：継続的な観察はされていない。河芸港に北接する海岸で6月22日に抱卵中の巣1、ヒナ1羽が観察されている。観察：平井正志

河芸港から南の豊津浦、白塚海岸、町屋浦(河芸町・津市)：4月24日から7月13日まで調査した。毎回13羽から21羽の個体が記録され、6月中旬にはヒナが観察され、ヒナは津市河芸町境あたりで多く発見されており、全体で合計7羽観察されている。観察：橋本富三

雲出古川河口(香良洲町)：5月から観察された。4羽から6羽の成鳥が観察され、5月6日に3巣が発見されたが、5月12日には全て消滅していた。犬をつれた散歩による放棄であろうと考えられる。6月22日の観察でも繁殖に成功した形跡はなかった。観察：久住勝司

近年は、吉崎海岸以外にも豊津浦、白塚海岸、町屋浦でも釣り客が増えており、シロチドリの繁殖に圧力を加えていると考えられる。

(文責：保護部 平井正志)

●支部活動の記録（5月～8月）

- 5・17 「自然系博物館を作る会」会議に副支部長出席
- 5・23 三重大学生物資源学部附属教育研究施設事務室へ演習林入林願い及び探鳥会共催依頼の文書提出
- 5・25 第10回中部ブロック会議に副支部長他2名参加
- 5・27 林野庁に対し「名張市滝之原の保安林解除申請の却下（お願い）」の要望書を提出
- 5・28 鈴鹿川河口鳥獣保護区拡大設定について意見書を提出（全4通）
- 5 「バードウィーク全国一斉野鳥販売実態調査2002」に参加協力
- 6・1～2 「MIE・みんなで創る環境フェア2002」に参加（北勢地区）
- 6 支部報「しろちどり」第35号発行・発送作業（津地区）
- 6・4 名張市・伊賀県民局を保護部長他1名で訪問（要望書の提出）
- 6・6 度会町獅子ヶ岳山麓鳥獣保護区設定について意見書を提出（全7通）
- 6・7 尾鷲市曾根鳥獣保護区期間更新について意見書を提出（全4通）
- 6・7 熊野市海岸部鳥獣保護区期間更新について意見書を提出（全6通）
- 6・8 平成13年度宮川流域ルネッサンス事業NPO委託調査として宮川河口調査（南勢地区）
- 6・10 三者（県・警察・野鳥の会）合同による野鳥密猟パトロールの実施（南勢地区）
- 6・15 県企画局と木曾岬干拓地の調査について打ち合わせ（保護部）
- 6・20 野鳥密猟パトロール（南勢地区）  
伊勢志摩国立公園のあり方・方向性を考えるうえでの意見・提案等のヒヤリング調査で環境省の委託調査会社と面談（南勢地区）
- 6・24 名張市役所を保護部長他3名で訪問
- 6・25 県へ「木曾岬干拓地内への無許可侵入者に対する措置についての要望」を提出
- 6・26 木曾川上流銃猟禁止区域新規設定について意見書を提出（全5通）
- 7・6 長良川河口堰フォーラムに参加（北勢地区）
- 7・13 保護部会
- 7・10 小俣町新村大仏山銃猟禁止区域変更設定について意見書を提出
- 7・16 鈴鹿川河口鳥獣保護区の設定等に係る公聴会へ支部長代理が出席
- 7・16 大山田村富永北部休猟区設定について意見書を提出
- 7・18 芸濃町南部休猟区新規設定について意見書を提出（全2通）
- 7・18 特定鳥獣保護管理計画（ニホンジカ）に基づく狩猟の制限の変更についての意見書を提出
- 7・19 御浜町神志山鳥獣保護区の設定等に係る公聴会へ支部長代理が出席  
熊野市海岸部鳥獣保護区榎ヶ崎特別保護地区の設定等に係る公聴会へ支部長代理が出席
- 7・26 伊勢市高倉山鳥獣保護区外宮神域林特別保護地区の設定等に係る公聴会へ支部長が出席  
度会町獅子ヶ岳山麓鳥獣保護区の設定等に係る公聴会へ支部長代理が出席  
磯部町の矢鳥獣保護区の設定等に係る公聴会へ支部長代理が出席
- 7・28 2002年度第2回理事会
- 7・31 特定鳥獣保護管理計画（ニホンジカ）に基づく狩猟の制限の変更に係る公聴会へ支部長が出席
- 8・2 県環境部との勉強会
- 8・4 三重県支部交流会（企画部）
- 8・17 木曾岬干拓フォーラム2002 第1回打ち合わせ会（北勢地区）
- 8・19 林野庁三重森林管理署長に上野市法花の引台国有林内における粘土採掘計画について申し入れ

● これからの活動（9～12月）

- 9 支部報「しろちどり」第36号発行・発送作業
- 9・29 「霞4号幹線」について意見交換会
- 11・10 「木曾岬干拓フォーラム2002 自然と未来を考える」開催
- 11・23 「身近な自然を体験する県民デー」に参加
- 12・1 2002年度第3回理事会

理事会つうしん

2002年度 第2回理事会の主な内容

2002年7月28日（日）津市中央公民館にて

出席14名

1、報告・協議事項

●編集部

- ①「しろちどり」35号を6月発刊した。
- ②「しろちどり」36号（9月発刊予定）の内容について  
五主海岸の調査を入れたい（保護部）  
→別に予算化して支部報とは別刷りとして印刷する。
- ③編集方針について  
現在、事務局と編集部が分担して編集しているが、今後は編集部で一括して編集するようにする。

●研究部

上野市の国有林内での粘土採掘問題  
猛禽類が出現しているところにパイプラインの敷設計画。 → 林野庁への要望書を三重県支部から出す。

●保護部

- ①「MIE・みんなで創る環境フェア2002」に木曾岬の展示出展。  
（6月1・2日 四日市ドーム）
- ②長良川河口堰フォーラム（7月6・7日 長良川河川敷）参加。
- ③木曾岬干拓地フォーラムについて  
11月10日（日）長島町中央公民館で開催予定。
- ④安濃町の溜池改修に伴う問題  
七郷池堰堤工事予定地で猛禽類調査を行う。  
町道を建設することが問題。静岡県猛禽類専門家の新井さんに指導に来てもらう。
- ⑤しろちどりの繁殖観察
- ⑥名張市の斎場問題  
斎場は工業団地に建設。牛舎の移転問題は移転しないという市長の方針。  
探鳥会を三重県支部で開催したい。

●企画部

- ①三重県支部交流会について  
8月4日（日）、松阪市のサンライフ松阪で開催した。
- ②探鳥会企画書の提出について  
「野鳥」誌に掲載してもらうために8月中に提出のこと。

## 支部活動のページ

- ③「身近な自然を体験する県民デー」（11月23・24日）について  
参加するかどうか。昨年は高松海岸で観察会を行った。  
→木曾岬干拓地とその他2カ所できないか検討。
- ④ジュニア向け探鳥会を実施するための研修会について
- ⑤担当人事の変更について  
中村みつ子理事に保護部と企画部を兼任してもらう。
- ⑥探鳥会チェックリストの作成について  
現行の「リーダーズカード」を改訂する。
- ⑦腕章等の購入について
  - 南勢地区
    - ①密猟パトロールを6月に行い、4件摘発した。
    - ②平成14年度宮川流域ルネッサンス事業NPO委託調査で宮川河口の野鳥を調査中。
  - 事務局
    - ①平成14年度鳥獣保護区設定基礎調査業務委託について  
委託調査の結果について何らかの形で発表を検討する。
    - ②第10回中部ブロック会議への参加と、来年度三重県での開催について
    - ③三重県環境部との雑談会（勉強会）の開催予定
    - ④平成14年度支部事業補助金の交付決定（日本野鳥の会本部）
    - ⑤新聞切り抜きボランティア（支部会員）の募集について

2、その他連絡事項（省略）

### ★ 新聞切り抜きボランティアの募集 ★

野鳥や自然についての新聞記事を切り抜いていただけませんか？

お手伝いしていただける方は、事務局までご連絡ください。

事務局 西村 090-1566-6010



訂正：

前号（36号）の＜三重県支部へようこそ＞欄で川崎通夫氏の名前が間違っていました。正しくは川崎道夫氏でした。訂正してお詫びいたします。

## 今年も「木曾岬干拓フォーラム2002年」を開催します！

三重県と愛知県にまたがる木曾川河口に位置する木曾岬干拓は、昭和40年代に造成された干拓地です。県境問題、耕地としての必要性の低下などにより利用法が決まらないままに放置された長い歳月の間に、干拓地では、チュウヒなどが見られる湿性草原の生態系がかたちづけられました。最近になって三重県が打ち出した開発計画には、多くの問題があります。(詳しくは「しろちどり」第34号参照)

県は開発を前提とした環境アセスメントを今年3月より実施、私たちはそれに先立って今年1月から干拓地に入り、野鳥の調査を行っています。

今、地球温暖化に伴う気象の変化による災害が世界のあちこちで起きています。自然破壊を伴う開発が、いかに愚かなことかは明らかです。失われた自然を取り戻す活動が、アメリカやドイツではすでに始まっています。木曾岬干拓地の未来について、みんなで考えましょう。フォーラムの内容は下記のとおりです。

日 時：2002年11月10日(日) 午後1時～4時

場 所：桑名郡長島町中央公民館(地図参照)

参加費：無料

テーマ：「自然と未来を考える」

講 演：

●「河北潟の30年」中川 富夫氏

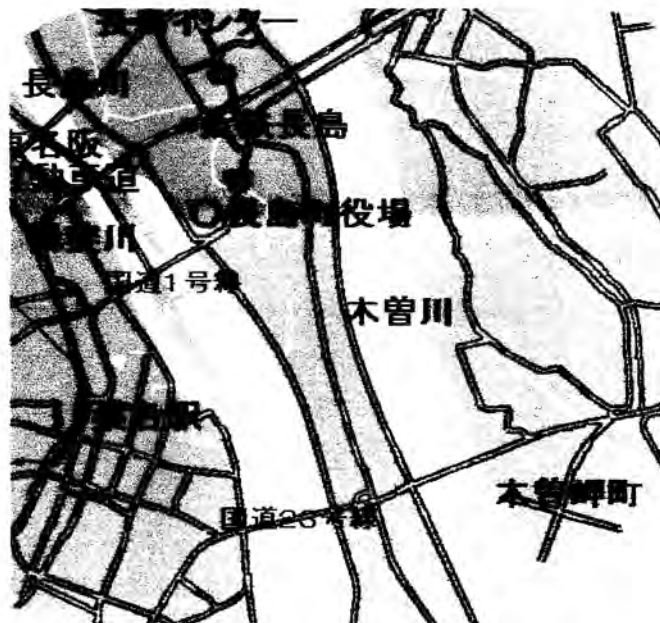
石川県河北潟でチュウヒを30年追ってこられた氏のお話から、私たちはたくさんを学ぶことができます。

● 木曾岬干拓地の鳥類調査の中間報告 森井 豊久氏(名古屋鳥類調査会代表)

討論：干拓地の利用方法についての意見交換

問合せ先：村田芳雄( )

近藤義孝( )



## 初めての探鳥会

四日市 徳岡章

「しろちどり」5月号に新入会員として名前を紹介して戴きありがとうございます。

4月から会員と成りましたので、ご指導をよろしくお願い致します。

加入のきっかけは、海蔵川畔をウォーキング中に高和義さんにお会いしたことからです。私の故郷は自然がいっぱいで、子供の頃は野山を駆けめぐりメジロやヤマガラ・シジュガラ等の野鳥を夢中で追っかけ、今では出来ませんが飼育もして楽しく遊んでおりました。

就職してからは仕事一筋に頑張ってきたが、永年勤めた会社を早期退職し時間もありません。これからの人生を有意義に過ごすため趣味の幅を広げようと詩今、庭の手入れやサツキの盆栽、そしてウォーキングで足腰を鍛えて山登り等もやっており、途中で見かける野鳥の姿や鳴き声に何と言う鳥だろうと、興味を持っており、退職前には環境の仕事もして自然の大切さを認識しておりましたので早速資料を送ってもらい即、加入手続きをしました。

初めての探鳥会は4月27日の県民の森探鳥会に参加したのですが、ご挨拶を聞いた後義母危篤の緊急連絡を受け病院へ駆けつけましたが間に合わず忘れられない日でした。

次の探鳥会は6月4日、私のウォーキングコースである海蔵川探鳥会に参加しようと日本野鳥の会から「今日からはじまるバードウォッチング」の本や「野鳥観察ハンディ図鑑」を購入して予習し、双眼鏡も買って事前準備をし参加することにしました。

当日は暑い日でしたが自宅から近くなので歩いて集合場所に行き、平日なのに十数人の参加者があり仲間に入れてもらい、目的及びマナーの説明を受けました。

海蔵川の河川改修でコンクリートで固められた堰が作られ、関連する代官橋の工事に伴い野鳥の楽園となっている森林が伐採されるため、事前に調査し環境の変化を

ウォッチしておこうとの話でしたが、説明を受けている間も樹上からシジュガラやホオジロ、カラヒワ等のさえずりが聞こえ、樹木が伐採で無くなればこの野鳥達は“どこへ行って生活するのだろうか”と思うと哀相な気持ちに成り、人間との共生の難しさを感じました。

いよいよ野鳥観察が始まり、田んぼには仲の良いカルガモのつがいや、沢山のアマサギや餌を探すダイ・チュウ・ショウのサギ仲間の見分け方を図鑑をめぐって確認したり、川面には白と青色の美しいゴイサギやケッケケツケツと鳴くカイツブリのつがいも見られフィニッシュはカワセミの飛行でした。

初めは双眼鏡を覗き野鳥の姿を追っかけていると、乗り物酔いの気分になり先輩の会員さんに聞くと自動焦点式があると望遠鏡をセットして見せてくれたりお世話に成りました。

久しぶりに自然を見つめ、ゆったりした時間を過ごし楽しむことが出来た1日でした。

この日の2時間で鳥合わせの結果23種の野鳥の姿を観察することが出来ました。

海蔵川河畔には、まだまだ自然が残されておりますが、ここ数年、周辺は河川の改修や宅地への開発が進み残念ながら自然の形態が破壊の方向に進んでいるのが現状であります。

この環境を皆んなが大事にし次世代の子供達へ引き継ぎ残して行くのが、我々のこれからの任務ではないかと思ひながら、初めての探鳥会を終わりました。

## 「野鳥との出会い」

コノハズクの声聞いて

阿竹博雪

「コノハズクの声聞こう」に、初めて参加させて頂いたが平成8年の6月。

初めてお会いした坂元さんから、鳥の事は何も知らない、と言っても、身近にいるスズメやハトから、10くらいの鳥の名前は言えるでしょう。

それだけでもう立派なものです。等と煽てられて、その気になったのが始まり。



たまに参加させて頂く探鳥会での、最後の鳥合わせで、それぞれの鳥の習性や、特徴を丁寧に説明して下さる谷本さんのお話にも、ウンウンと判つた心算りで、実は何も判っていない。

一晚横になると、綺麗に忘れてしまうコツプ頭です。

以来、中村さんの腰巾着のようにお伴させて頂いて、今日までご指導を賜っております。が、未だに鳴声や姿形から名前を思い出せない不肖の弟子？です。

例年「コノハズクの声の聞こう」に参加させて頂いている私達は、仕事のOB、ポートのOB、俳句の仲間、山の仲間、酒呑みの仲間、その他と多士済済のメンバーが縦横の糸に複雑に路み合ったグループです。

そんな中から、美杉村にご縁のある柿本靖子さんからお寄せ頂いた原稿をご紹介します、報告に代えさせていただきます。

コノハズク

木の葉木兎 鳴く間の静寂 北斗星

ア

父生れし 家を曲がりて 河鹿川

戦後、川上に少し住んでいて、父と演習林へ歩いて登った。

父も三重高農林課出身なので、樹の事はいろいろ私と妹に教えてくれた。

その頃は、よく仏法僧の鳴くのを聞いた。

数年前、仏法僧の鳴くのを聞きに行こうと誘ってもらった時、身体の悪いのを忘れてOKしていた。その折一人でジッと立って居た時、祖父や父が何を今頃聞きにきているのやと笑ってるように感じた。しかし、その年、私だけの時、後の山から

「ブッポーソーブッポー」と聞こえて来た。せっかくきたのだから、聞いて行けよと父が聞かせてくれたと思った。そのあとの年からよく聞こえてテープにとった年もあったり、今年のように遠くで鳴く年もある。しかし、仏法僧だけでなく、河鹿や鹿、オオルリ、夜鷹、むささび、とさまざまな動物に出会い聞き、又、ウツギや卯の花、山ぼうし、そして、あの澄んだ空気。私は翌日、身体がなくなり、気分よく数日をすごす。いつまでも

この機会を与えていただけることを願っています。

夜鷹鳴く 美杉の山は 匂ひけり  
十一に 送られて去る 美杉村  
のびやかに 仏法僧と 鳴きにけり

## 北海道便り

松島雅之 苫小牧

野鳥の会三重支部でお世話になり一年半、突然の転勤で7月1日から北海道にやってきました。

今度の職場はバーダーなら誰もが憧れる北海道は苫小牧。事務所から10分以内の所には北大演習林、ウトナイ湖、高岡森林公園など有名な探鳥地が集まっています。

でも本当の事を言うと、鳥たちは探鳥地でなくてもどこにでもいるのです。探鳥地になれる条件は唯ひとつ『道がある事』そこを外れると一度入ったら出てこれないか又は熊に食われしまうため、探鳥地にはなれない所なのです。

チョット大げさに思われるかも知れませんが、私の住むアパートの前にある大通りをはさんで苫小牧市民が早朝故歩をする緑ヶ丘公園があります。なんとその公園のいたるところに「熊注意！」の看板が有るのです。

最初の日曜日、引っ越しの荷物も解かずに早速出かけて見ました。そこはまるで高原の世界アカゲラ・センダイムシクイ・クロツグミにゴジュウカラ、なんと言っても北海道でしか見る事の出来ないシマアオジ・ヤマゲラ・ハシブトガラ・ノゴマ等これらに一気に出会ってしまったのです。

少し変わったところでは、九州にしかいないと思っていたカササギを街中でよく見かけるのです。ともかく苫小牧とはそんな素晴らしい町なのです、今後も面白いものを見かける事が有りましたらその都度報告をさせていただきます。

## 探鳥会

### ● 里山の鳥を観る探鳥会 (伊勢市)

日時：5月6日(月) 9:00~12:00

担当：中村みつ子・林 淳子

参加者：46名

観察種：ヤマガラ、ヒトドリ、コジュケイ、ウグイス、ホシジロ、カラヒトリ、トビ、スズメ、カワセミ、コゲラ、アオジ、シジュウカラ、エナガ、メジロ、ツバメ、サシバ、ハシボソガラス

計17種

#### コメント

ゴールデンウィーク最後の休日に組んだのは良かった。初めての参加者も数名居たので、今後に継ぎ行けたら良い。

### ● 鈴鹿川河口探鳥会 (四日市市)

(テグス回収)

日時：5月12日(日) 9:50~12:10

担当：高 和義・鹿島素子

参加者：11名

観察種：カイツブリ、カワウ、カルガモ、ホシジロ、トビ、コトドリ、シコトドリ、キョウジョシギ、キアシシギ、チュウシヤクシギ、ヒバリ、ツバメ、ハクセキレイ、セッカ、コアシサシ、ホシジロ、カラヒトリ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス

計20種

#### コメント

キョウジョシギ、キアシシギ、チュウシヤクシギ等の旅鳥は各々十数羽間近でみる事ができた。自転車、空缶、買物用ビニール袋等のゴミ捨てが多く、まだまだ環境保全の意識が低い。

回収テグス 55gr×13m/gr=715m

回収釣り針 39本 鉛錘 38ヶ

### ● 青山愛宕神社探鳥会 (多賀郡青山町)

日時：5月19日(日) 10:00~12:00

担当：塗屋尋一・前沢昭彦

参加者：15名

観察種：コサギ、カラヒトリ、ツバメ、ウグイス、ミサザイ、オホリ、シジュウカラ(♂・めす)、ヤマガラ

計8種

#### コメント

集合時間に雨が降ってきて通り雨かなと思っていたがそのまま降り続いたが現地に行った。多く集まったので実行した。

### ● 高原のホオアカ探鳥会 (曾爾村)

日時：5月26日(日) 9:00~13:00

担当：橋本富三・久住勝司

参加者：11名(会員11名)

観察種：ホシジロ、ウグイス、トビ、ヒバリ、セッカ、ヒトドリ、カラヒトリ、ホオアカ、アオバト、カス、ツバメ、ハシボソガラス、カク、カ

計14種

#### コメント

快晴にめぐまれ、さわやかな風の中でホオアカのさえずりを楽しむことができた。

### ● 木曾岬干拓地探鳥会 (木曾岬町)

日時：5月26日(日) 9:00~12:00

担当：村田芳雄・近藤義孝

参加者：15名

観察種：アオサギ、コアシサシ、キジ、カワウ、セッカ、コサギ、ダイサギ、ハクセキレイ、コトドリ、カルガモ、ゴイサギ、オホシヨリ、コガモ、チュウビ、ホシジロ、キアシシギ、キジバト、ケリ、チュウサギ、ヒバリ、アマサギ、ムクドリ、カワセミ、タマシギ、カラヒトリ、ツバメ、モズ、ヒトドリ、ハシボソガラス、ハシボトガラス、スズメ、バン、ミサコ、ホシジロ、トバト

計35種

#### コメント

今回も海星高校の生徒が4名参加し、熱心に観察してくれた。将来に明るい希望が持てる。

前回の調査の時には、モデルプレーンを干拓地内に持ち込み飛ばしていたので撤去させた。そこには滑走路のような平坦な地面が作られていた。

### ● 斎宮池探鳥会 (明和町)

日時：6月1日(土) 9:00~11:30

担当：西村 泉・山田昭子

参加者：5名(会員)

観察種：ヤマガラ、ウグイス、エナガ、ヒトドリ、スズメ、ツバメ、キジバト、ゴイサギ、アオサギ、カワセミ、ハシボトガラス、ハシボソガラス、ダイサギ、メジロ、カラヒトリ、コゲラ、セグロセキレイ、カイツブリ、カワウ、トビ、コサギ

計21種

#### コメント

斎宮池の周辺環境は年を追うごとに悪化しているが、今回はウグイスのヒナが確認されたりして自然の営みが続いている。

### ● 美杉探鳥会 (美杉村)

日時：6月1日(土) 16:30~20:30

担当：坂元伸治・中村洋子

参加者：48名(会員25名 非会員23名)

観察種：オオトリ、コノハズク、スズメ、コノハ、ツバメ、ヨウカ、トビ、ジュウイチ、ウグイス、ヒヨドリ、ハシブトガラス、ミソサザイ、セグロセキレイ、シジュウカラ、ヤマセミ、ヤブサメ、アカゲラ、カワガラス

計 18種

コメント

コノハズクの声はよく鳴いていたが小さく（遠いため）「次回に期待しましょう」と言って別れました。ジュウイチは夜も鳴くということがわかりました。

## ●海蔵川探鳥会（四日市市）

日時：6月4日（火）10:00～12:00

担当：尾畑玲子・高和義

参加者：12名（会員8名 非会員4名）

観察種：カイツブリ、ツバメ、シジュウカラ、キジバト、ムクドリ、スズメ、カラヒリ、カウ、ゴイサキ、アマサキ、カカモ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、カセミ、コサキ、ヒバリ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、メジロ、チュウサキ、ホシジロ、ダイサキ、トバト、アイカモ

計 24種

コメント

海蔵川探鳥会の年度初めの回は例年雨で流れたり、参加者が少なかったり、さんざんだったが、今年は快晴で汗ばむほど。参加者の数もちょうどいい。第一回なのでフィールドマナーの紹介をした。（非会員4名参加）

そのあと日本自然保護協会の「川の自然度調査」を使って川の様子を調査した。今年はツルヨシやオオフサモが例年より豊かに茂っているように思う。

今回は10月8日（火）。駐車場は農道か三重地区市民センターを予定。

## ●鍛冶屋峠を歩く探鳥会（伊勢市）

参加者：20名（会員14名 非会員6名）

日時：6月9日（日）8:30～11:00

担当：山田昭子・吉居瑞穂

観察種：シジュウカラ、ヤマガラ、ウグイス、ヒヨドリ、ホシジロ、カラヒリ、メジロ、コケラ、アオケラ、ハシブトガラス、イカル、カス、ホトギス、キジバト、サコウチョウ、アマツバメ

計 16種

コメント

峠まで登ると晴天だったので景色が良かった。鳥は思ったほど多くは見られなかったが、ひのきやていかかざらが香り、またたびの半夏生がみられとても良かった。

## ●木曾岬干拓地探鳥会（木曾岬町）

日時：6月23日（日）9:00～12:00

担当：村田芳雄・近藤義孝

参加者：26名

観察種：アマサキ、コアジサシ、キジ、カウ、セッカ、ツバメ、スズメ、オオヨシキリ、カカモ、モズ、カセミ、ホシシジロ、ハクセキレイ、ハシボソガラス、コチドリ、キジバト、ムクドリ、ヒバリ、ケリ、コサキ、ダイサキ、トバト、ミサコ、チュウサキ、カラヒリ、ゴイサキ、セグロセキレイ、チュウビ、ヒヨドリ、タマシキ、カイツブリ、ハシブトガラス、アマサキ、サコイ、ユリカモ

計 35種

コメント

第二名神の干拓地縦断によりチュウビ等の大型鳥類の行動に影響があるのか見ていく必要がある。

## 編集後記

例年咲く夕顔が今年もそろそろ暑い夏も終わりだと知らせてくれている。

私用多忙で探鳥会も殆ど行けなかったが、今年8月の中国上海・北京では、カササギをたくさん見ることができた。こちらでは、カササギはごく普通におり、警戒心も無く近くに寄ってくる。それと前にもいたがオナガもたくさんいることに、今回は改めて気がついた。それにしても中国は暑くて、帰ってきてやっと日本の初秋を感じたことだった。

M・M

## しろちどり 第36 2002年8発行

題字 濱田 稔

表紙絵 熊沢 英樹

編集 三村 通雄

〒

発行者 (財)日本野鳥の会 三重県支部

〒516-0026 伊勢市宇治浦田2丁目9-4

杉浦 邦彦方

印刷 館印刷

〒510-1321 三重郡菟野町田口

1903-3

●本誌掲載記事の無断転載を禁じます。●